

地域とともにある学校

鶴居中学校区（鶴居小学校・下幌呂小学校・鶴居中学校）



# コミュニティ・スクールだより

双方向、熟議、連携・協働 平成30年8月20日（月）No. 2

## 鶴居中学校区3校PTA合同研修会

7月18日（水）に鶴居中学校区3校によるPTA合同研修会を行いました。今年度より導入が始まったコミュニティ・スクールについて理解を深めるため



です。保護者、教職員、学校運営協議会、教育委員会等、約70名の皆様に参加していただきました。

まず、講師である北海道教育庁学校教育局義務教育課子ども地域支援グループ主査である吉村公孝様よりコミスクの概要について説明してもらった後、熟議（熟慮と議論を重ねながら、課題解決を目指す

＜将来構想を練る＞対話）を体験しました。この日のテーマは…

子ども達が、「私たちの未来は期待が持てる未来なんだ！」と感じ、「夢」や「志」を抱いて前に進んでいくためには、学校・家庭・地域は何を“大切に”していけばいいのか？また、どのような取組、仕掛けが必要だと思いますか？

参加者は、5、6人ずつ10のグループに分かれて、まず、自分のアイデアを付箋紙に記入し、その後グループ内で交流を図りました。さらに具体的な取組を一つ出し合いながら、他のグループとも交流を図りました。どのグループでも白熱した議論が展開され、研修後には、「面白かった」「また、やってみたい」という声も聞かれました。講師の吉村先生からも非常にレベルの高い熟議だったとの講評をいただきました。



熟議の内容を少し紹介すると、大切にしたいものとして、「自己肯定感」「地域との交流・人とのふれあい」「コミュニケーション」「自立」「体験」「基礎学力」などたくさんのキーワードがあげられていました。その中でも多かったものとして、「働く大人の背中」「キラキラ大人」「大人の姿から学ぶ」など、私たち大人の充実した姿があげられていました。

そして、具体的な取組として何ができるかという協議では、「職業体験」「大人が元気にあいさつ」「村内で漢字検定、英語検定、鶴居検定を行う。鶴居検定の問題は子ども達が村の人達との対話を通して問題を作成する」「障害のある方や高齢者の方と一緒に歩く」などがあげられていました。

講師の吉村先生から熟議のあとのまとめとして、「コミュニティ・スクールはあくまでも“仕組み”であること。それは、地域総がかりで子ども達を育む学校と地域の連携・協働の仕組みであり、明日から劇的に変化が見られるものではないが、うまく活用することで、教育の充実や地域の活性化につながるものであること」が紹介されました。これから長く続いていくものなので、欲張らず、できることから継続していく必要があります。中札内村のように、「あいさつと返事」というシンプルな内容で進めている所もあります。

鶴居中学校区学校運営協議会では、各学校に部会を設けての活動も展開していきます。それぞれの部会では、学校の特色にあわせたテーマをしぼっています。（次号で紹介）鶴居中学校区学校運営協議会としての共通実践については、今回の熟議を参考にさらに検討を進めていきます。

合同研修会の最後に鶴居中学区区学校運営協議会、宇野健二会長より「鶴居村では、地域との協働という部分では既に取り組んでいることもたくさんあることを再認識しました。今後、熟議を生かした取組を進めたい。」とのあいさつで中身の濃い研修を締めくくりました。



びっしりと付箋が貼られた模造紙